



女性職員の活躍を紹介します



Q1 現在の業務内容は？

処遇部門という被収容者の処遇や施設の保安警備を担当する部署で、統括矯正処遇官として勤務しています。適正な職員配置の管理、各種警備訓練の計画立案、面会や信書の発受の許否判断、職員育成に係る取組の実施等、幅広い業務を所管しており、上司や部下、関係部署等多くの職員と協力しながら、日々勤務しています。

Q2 この仕事を選んだ理由は？

採用案内に書かれていた「刑務官が強い使命感を持ち、罪を犯した人が改善更生できるよう、時に厳しく、時に温かく接しながら、職務にまい進している」という点に惹かれて採用面接を受けたところ、縁あって採用していただきました。最初から刑務官を目指していたわけではありませんが、今は刑務官になって良かったと思っています。

Q3 やりがいはありますか？

刑務官の仕事は、安全な社会の実現のためにはなくてはならないものであり、やりがいのある仕事だと思います。私は、被収容者がわずかでも良い方向に変わっていることに気付いたり、部下職員が成長する姿を見られたときにやりがいを感ずります。ただ、私たちの働きかけによって被収容者が劇的に変わるものではなく、成果が見えにくい、社会からの評価が得られにくい仕事であるため、やりがいを見つけられない職員がいることも事実です。つまらない仕事と思うか、やりがいのある仕事と思うかは自分次第なので、刑務官の仕事の意義を自覚し、やりがいを見つけてもらいたいと思います。

Q4 昇進試験を受けた理由は？

職場をより働きやすいものにしたい、職員のための仕事がしたいと思ったことと、研修で他施設に行った際、先に昇進試験を受けた先輩が主任矯正処遇官として勤務している姿を見て憧れたので、幹部を目指そうと思いました。

笠松刑務所 処遇部 統括矯正処遇官（第一担当）



刑務官を目指す方へひとこと！

刑務官の仕事は決して楽なものではなく、理想どおりにはいかないものです。何度も入出所を繰り返す被収容者を見て、無力感を感じることもあります。しかし、様々な問題を抱える彼女たちと向き合い、改善更生を実現させるための模範となれるのは刑務官しかいません。「先生のおかげで変わることができました。」と言われたときの喜び、苦勞を共に乗り越える仲間
の存在、そして、自分たちが安全な社会の実現に寄与しているという誇りが、私たちが困難な仕事に向かわせる原動力です。

「国民の平穏な日常を守りたい」という正義感と「罪を犯した人を改善更生させたい」という優しさを持った人は、ぜひ私たちの仲間になってください。